

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 好井 裕明

研究課題		被爆表象のメディア社会学的研究（８）：エスノメソドロジ的な映像解読・言説解読を中心として
報告の概要	研究目的 および 研究概要	目的]戦後 74 年が過ぎ被爆者の直接的な体験語りがすでに困難になりつつある現在、いかにして被爆の記憶を継承し得るのか。被爆の「伝え方」を詳細に解読しその方法や問題点を検討し継承に効果的な語り方を創造すべきだと考えている。この関心から映画やドキュメンタリーなどメディアにおける被爆表象をめぐる語り口(ethnomethods)を明らかにしつつある。 [概要] 1. 被爆者表象の解読作業を続行し、まとまった成果に向けての原稿を書き進めたい。 2. 広島市平和記念館情報資料室で収集してきた被爆者関連資料を利用し「被爆者」というカテゴリー化について言説分析を進める予定である。 3. 上記の作業に関連して社会問題や現代社会、文化をめぐる関連文献や映画やドキュメンタリー等を積極的に収集する。
	研究の結果	今年度は、広島原爆資料館が全面リニューアルされ、まったく新しい展示内容となった。二度ほど実際に資料館に出かけ、展示を詳細に見て回るとともに、写真撮影を行った。またリニューアルにあわせて 2019 年 8 月 6 日にこの資料館展示に焦点をあてた NHK スペシャル「“ヒロシマの声” が聞こえますか～生まれ変わった原爆資料館～」が放送された。それも録画し内容分析を行った。その成果として『ソシオロジ』（社会学研究会）の最新号に「“ヒロシマの声”を聞くことをめぐって」という短い論考を執筆した。さらに『新社会学研究』第 5 号（「2020 年 8 月末刊行予定」）に「『被爆の記憶』を『継承』するということ」という論考を現在執筆中である。
	研究の考察・反省	映画やドキュメンタリーという映像における被爆表象の「語り方」「描き方」をめぐる分析は、他にも執筆している映画社会学のコラムで続けているが、あと 1 年か 2 年で『原爆映画の社会学』（仮）という形で研究成果をまとめる必要があると考えており、必要な具体的作業にそろそろとりかかりたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 好井裕明「“ヒロシマの声”を聞くことをめぐって」『ソシオロジ』（最新号に掲載予定であり、ページ数などは未定）	